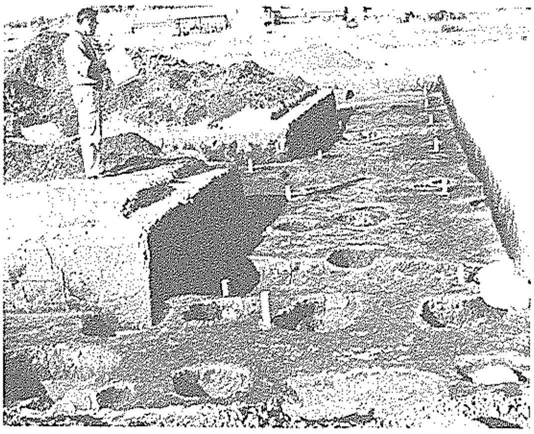
区画溝を検出か

土佐国府跡発掘調査



区画溝と思われる溝が検出された金屋地区

県教育委員会が市教育委員会の協力で十一月十六日から実施していた第十九次土佐国府跡発掘調査の現地説明会が、十二月二十六日比江の発掘現場で行われ、百人余りの市民が訪れました。

今回調査したのは、比江字松の下（横マクラ）地区及び金屋地区約七百二十平方㍍で、政庁跡確認の手がかりになると見られる溝などが発見されました。

土佐国府跡発掘調査は、土佐国府の範囲を確認するとともに、国府の中心である国衙の位置を明らかにし、政庁などの主要な遺構の規模や構造を解明し、今後の保存、整備の方策を検討するための基礎資料を得るために、昭和五十二年から行われているものです。前回の南屋敷における調査では、排水用と見られる溝が発見され、注目されました。

松の下地区では、掘立柱建物跡二棟、溝跡三条などを検出、須恵器や土師質土器など約千八百点の遺物が出土。

また、金屋地区では、掘立柱建物跡三棟、溝跡三条、塀跡二列、土坑四基などを検出、国衙跡では現在まで一点しか出土していない緑釉陶器など約二千点の遺物が出土しました。

今回の調査で検出された掘立柱建物跡は、方形のしっかりしたものがほとんどで、その規模から見て国衙の周辺官衙群の一部と考えられます。また、溝跡はいずれも南北及び東西の方向で、特に金屋地区で検出された東西方向の溝跡の一つは、逆台形の幅約一・四㍍、深さ約七十㌢のしっかりしたものであることから、区画用の溝と見られ、政庁跡確認の大きなかぎとなると考えられています。

創建当時の建物跡を確認

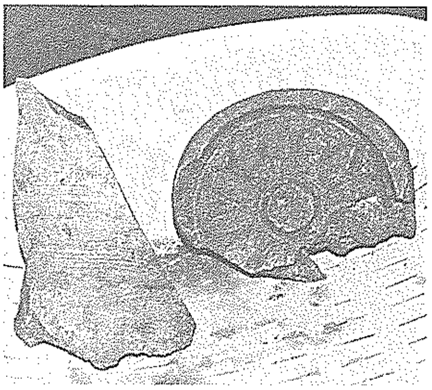
国分寺発掘調査

県、市の教育委員会が九月の上旬から実施していた国分寺における発掘調査の現地説明会が、同じく十二月二十六日国分寺で行われました。

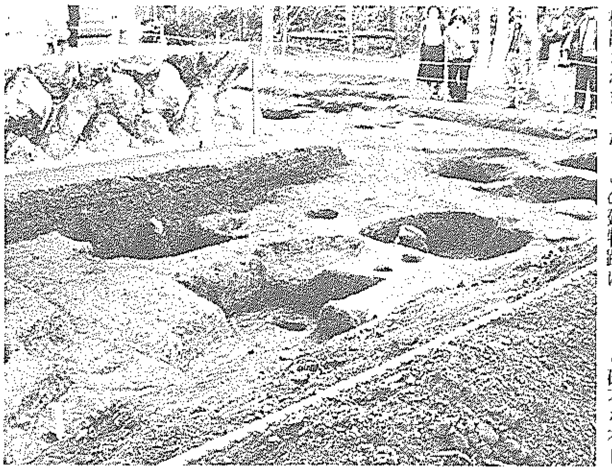
今回の調査は、国分寺の現状変更や市道の改修などに伴い行われたもので、初めて創建期のものと見られる遺構が発見されました。

今回調査したなかで、参道の改修に伴う調査では奈良時代の遺物や瓦が出土、また三間×五間以上と見られる建物跡が検出されました。この建物跡は、一辺が一㍍近い方形の柱穴からなっており、根石が出土したことから礎石を有していたと考えられます。これらのことからこの建物は創建当時の伽藍の一部と見られ、創建当初の伽藍配置は現在とは異なっていたことが確認され、今後の調査が期待されています。

県教委では、昭和六十三年度も引き続き学術調査を行うことにしています。



出土した奈良時代の瓦



創建当時の建物跡と見られる柱穴